

令和元年度

学校自己評価報告書

令和2年 3月31日

学校法人 東洋学園

専門学校 東洋公衆衛生学院

学校関係者評価委員会

学校自己点検・評価とは学校が学校運営状況について自ら評価し、その結果に基づき改善することである。本校では、学則第4条及び自己点検・評価規程により実施し、学校及び学科の方針、運営計画にもとづいた教育活動や学校運営に対し、総合的に評価した。

根拠として、授業評価資料、会議（職員会議、学科長会議、学科会議）の議事録、日報、学生指導の報告書、復命書等がある。

評価項目を自己点検・評価規程第2条の10項目とし、また、評価段階を4段階（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

I 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・教育目標、育成人材像が設定されている	4
2	教育理念・教育目標、育成人材像は明文化している	4
3	職業教育の特色を持っている	4
4	教育理念・教育目標周知徹底されている	4

【状況・課題】

- ・「医の倫理をわきまえ、医療人としての学術を基本に、情操豊かな人間性を培う」という教育理念、(1)自己の成長のために学習を継続するとともに、職業人としての問題の追及と解決に当たる態度を身につける。(2)責任感と実務能力を備え、社会の信頼に十分にこたえられる知識と技能・態度を身につける。(3)人とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を培い、幅広い教養を身につける。という教育目標を設定し、学生便覧、学校案内書・Webサイトおよび学内掲示板（3か所）で周知している。
- ・高度な専門知識、技術教育、社会人、医療技師に求められる人間性の教育を実践している。
- ・学生便覧に掲載した校歌を行事等で歌う機会を増やし、本校の教育理念をより深く理解するように努力した。

【改善策】

- ・日頃から学生に対して建学の精神、教育理念や教育目標に基づいて指導を行う上で、教職員自ら実践することから心がけ、改善に努めていく。
- ・学生指導のあり方を中心に検討し、学校全体の取組として充実させていく。

II 学校運営

	評価項目	評価
5	目的に沿った運営方針が策定されている	3
6	運営方針に沿った事業計画が策定されている	4
7	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能している	4
8	人事や給与に関する規程等は整備されている	4
9	情報のシステム化による業務の効率化が図られている	3

【状況・課題】

- ・学則に定めた目的を達成するよう学校運営に当たっているが、具体的に学校および学科運営方針の策定を要する。
- ・年間スケジュールに沿って事業計画を進めている。
- ・法人の意思決定事項は寄附行為で定めており、主要な項目は理事会・評議員会で決定している。通常の業務運営については理事長・学院長の下、各部署の役職者にて、意思決定、組織運営を行っている。
- ・就業規則、給与等の諸規程については整備され、状況に応じ改正している。
- ・LAN サーバーを導入し、職員間で情報を共有し、業務の効率化を図っているが、十分ではない。

【改善策】

- ・職員会議などで学校運営方針の意識付けを積極的に行う。
- ・LAN サーバー内の共有フォルダ、ファイルを定期的に整理し、事務効率を上げる。
- ・今年度は G Suite for Education の情報共有ツールの研修会を行い、各職員のスキル向上に努めている。また、学生にも積極的に利用してもらうよう指導をしていく。
- ・Web サイトによる情報公開を積極的に行う。
- ・学校運営について、安定的な定員確保と学生指導と施設面の整備について今後も継続して検討する。

III 教育活動

	評価項目	評価
10	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
11	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	4
12	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
13	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
14	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
15	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	3
16	資格取得の指導体制はある	4

【状況・課題】

- ・カリキュラム編成については、指定規則に則り教育内容の充実に努めており、講義、学内実習、並びに臨地・臨床実習を重視している。
- ・学科長を中心とした各学科の担当で構成された会議にて、現代医療のニーズに合わせ、カリキュラムの見直しを行っている。
- ・学則、履修方法及び進級・卒業認定細則により成績評価・単位認定の基準を明確にしており、進級及び卒業認定は学院長、学科長で構成された進級査定委員会、卒業認定委員会で決定している。
- ・シラバスを全面的に改訂し、教育内容の整備を行った。また、Web サイトでもデジタルブック化して公開している。
- ・授業計画は明文化され、1 学年では基礎学力の習得と医療人としての人格形成を行い、

2 学年では専門科目の習得と学内実習・臨床実習Ⅰ（診療放射線技術学科）、3 学年の臨地実習（臨床検査技術学科）・臨床実習Ⅱ（診療放射線技術学科）では、2 学年まで学んだことの実践を行い、国家試験の合格を目指す教育を実施している。

- ・学生による授業評価を実施しており、授業内容の改善に努めている。また、授業評価の実施方法について本年度は、前期は授業終了後に用紙を配布回収する一斉アンケートから、後期は G Suite for Education の Forms による配信型のアンケートを行い、時間がある時に、気軽に学生が回答できるような体制をとっている。
- ・教員は学会または研修会に参加している。ここで知り得た最新の時事情報は、教員が授業で積極的に取り上げていくよう、それぞれ創意工夫をしている。
- ・専門的な資格取得を奨励している。今後は、入学時のガイダンスにおいて本校で取得可能な資格の内容について説明を重ねて行う。
- ・少人数制により、国家試験合格に向けて、担任が学生個人の習熟度を把握しきめ細かな指導を行っている。不合格者においては、聴講生制度があり国家試験合格まで指導する。

【改善策】

- ・専任教員の各専門領域、各教科関連の研修について、学科レベル、個人レベルでの取組をさらに強化していく。また、学内での FD 研修体制を確立していく。
- ・授業評価の結果を授業に反映できるように、各教員にフィードバックできるシステムを構築していく。また、G Suite for Education の Forms による配信型のアンケートの実施により、集計作業は自動化しているので、必要に応じて授業評価をリアルタイムに確認することができる。なお、授業評価の情報公開の方法については、結果の取り扱いについて、全教員が同じレベルで活用できるようにルールを設ける。
- ・GPA 制度を導入して学修成果の指標として役立たせる。
- ・国家試験の合格に向けて、学生の能力や習熟度を個々に把握しながら、さらにきめ細かな指導を強化していく。

IV 学修成果

	評価項目	評価
17	就職率の向上が図られているか	4
18	資格取得率の向上が図られているか	4
19	退学率の低減が図られているか	3
20	卒業生の社会的な活動状況や評価を把握しているか	3

【状況・課題】

- ・各学科においてクラス担任が主導となり個別指導を行っている。また、外部講師による履歴書の添削指導も行っている。
- ・学生への面接指導を教員による専門職としての目線から、職員による人事採用者としての目線からそれぞれ実施している。
- ・臨床検査技術学科では指定校・推薦 1 期の合格者に対し、12 月に入学前教育を実施した。同時に G Suite for Education の Gmail の初期設定を行い、教員と新入生間でメールを利用して気軽に質問や相談できる環境を整え、入学後もスムーズに学生生活スタートできるように努めた。

- ・1年次から国家試験関連科目の講義の授業を取り入れ、早い段階から意識付けをし、基礎学力の向上しない学生には個別指導や希望者を集めての補習授業を行うようにしている。
- ・学年末に退学者が複数あり、普段の指導、対応等の対策について検討を要する。
- ・卒業生の動向について職場訪問等によるアンケートを実施し、活動等の状況を把握した。
- ・新着求人票を迅速に学生に公開するために、Career Map を利用し、受理した求人票の新着情報を随時送信している。また、G Suite for Education のドライブを利用し、電子化した求人票を必要に応じて、各学生がドライブにアクセスすることにより閲覧できる体制にした。

【改善策】

- ・入学時の研修内容の改善や、医療機関との提携によるメンタルケアの実施など引き続き、学生生活の支援に取り組んでいく。入学予定者には、できるだけ入学前教育を実施し、G Suite for Education の初期設定を含めて、新入生の入学前の不安要素の払拭のための環境の構築を検討していきたい。
- ・入学者全員が技師免許を取得して卒業できるように、学生の情報共有に努め、全教職員で退学者防止の対策を強化する必要がある。
- ・同窓会や医療機関などの職場との連携を図りながら、引き続き卒業生の状況把握や支援を目指していく。そのためには、卒業後でも G Suite for Education の Gmail や Career Map を継続して使用できるように、アナウンスしていく。
- ・入学から卒業まで日常的に学生の動向に対して気配りを行うことができるよう、すべてのクラスで毎日始業時と終業時にショートホームルームを行い、担任による指導を実施することを検討していきたい。

V 学生支援

	評価項目	評価
21	進路指導に関する体制が整備され、機能しているか	4
22	学生相談に関する体制が整備され、機能しているか	3
23	学生の経済的側面を支援する体制が整備され、機能しているか	3
24	保護者と適切に連携しているか	4
25	卒業生への支援体制はあるか	3

【状況・課題】

- ・学生個々の意思を尊重しながら、個別の対応を実施しているが、学生自身が学生相談のシステムを十分に認識しているとは言い難く、今後も周知に努める必要がある。今後は、G Suite for Education および Career Map のメッセージ機能を利用した学生相談等にも対応していけるようにする。
- ・奨学金制度関連の手続きや、学納金の延納・分納の受入、令和2年4月から実施される、高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金等、家庭環境に合わせた支援体制に基づき、丁寧な対応を心がけている。
- ・保護者に対して学生の成績を通知する際に、学校に対する要望等があれば、返信して頂くよう保護者をお願いをしている。

- ・学生の状況を鑑みながら保護者への連絡や面談を適宜実施しており、保護者の理解、協力を得るよう努めている。
- ・卒業生への支援体制は、同窓会を通じての就職斡旋等、個別に対応している。また、近況報告を兼ねて卒業生が来校することがあり、その機会に働いている環境や医療業界の最新情報を得ることができる。そして、その情報は在校生へ就職支援をする上で重要な資料となっている。また在学中に使用した G Suite for Education および Career Map のメッセージ機能を卒業後も継続して利用できるようにし、さらに効果的な体制や方策について検討を要する。

【改善策】

- ・求人票の適切な管理および情報提供により、学生の自主的な取り組みが見られる。学生支援室のより積極的な利用につなげる。
- ・実習先の医療機関以外でも、施設訪問を実施して、学生や求人等に関する情報交換や進路開拓に努めていく。
- ・学生便覧の配布や入学時のガイダンスの実施などにおいて、学生相談の利用方法に関する認知度を引き続き高めていく。
- ・学生の個人情報に留意しつつ、学生相談で得た情報を共有し今後の指導に反映させる。
- ・学納金納付困難な学生に対する奨学金制度の充実などに努めていく。
- ・G Suite for Education を日頃から教職員と学生とのコミュニケーションツールとしての活用してもらうための指導をし、さらに、卒業後の就職・転職活動や同窓会情報の提供等、引き続きこれらのツールを利用してもらえるような体制を整えていく。

VI 教育環境

	評価項目	評価
26	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	4
27	実習やインターンシップについて、十分な教育体制が整っているか	4
28	防災に対する体制は整備されているか	3

【状況・課題】

- ・施設設備の一部について老朽化に伴う修繕のほか、適宜、IT機器等の備品の更新や入れ替えを要する。
- ・校舎周辺の美化管理に努めている。また、情操教育の一環として、東京都公園協会「緑の基金」の助成を利用して学校花壇に花苗300株、土の入れ替え等の整備を行った。
- ・実習やインターンシップについての教育体制は整っており教育に活かされている。
- ・消防署との連携強化を図り、新たに防災計画書の作成などに努めた。さらに、学院祭では消火器の取り扱い訓練を行った。

【改善策】

- ・学生教育の充実を第一に施設設備の整備及び教育機器の導入に取り組む。
- ・教職員全体で環境美化、清掃活動に積極的に取り組めるよう計画を進めていく。
- ・作成した防災計画書に基づき地震災害等を想定した訓練を行う等、より内容充実を図っていく。

VII 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
29	学生募集活動は、適正に行われているか	4
30	教育成果の情報提供は、適正に行われているか	4
31	入学選考は、適正かつ公平な基準により行われているか	4
32	学納金は、妥当なものとなっているか	4

【状況・課題】

- ・募集活動や情報提供、入試選考等、適正に実施している。
- ・外部の進路ガイダンスでの本校志望者に対しては、体験入学等への来校を促進し、改めて本校の教育内容等の理解を深めてもらえるように努めている。
- ・学納金等は、適正かつ妥当な金額に設定している。
- ・学納金等については、学校運営経費や教材費、諸経費等の無駄な支出がないか常にチェックしている。
- ・学納金及び奨学金制度等については、募集要項及び Web サイト等を通じ、情報提供を行っている。また、次年度から実施される高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金の対象校となっているため、該当者に対しては丁寧に対応している。

【改善策】

- ・少子化対策や競合分野における学校の新增設に対応すべく、広報担当者を中心としてその他の教職員と連携して学生募集および情報提供に努めていく。
- ・入学希望者の対応について広報担当者以外の教職員も即時対応できるよう情報の共有、研修等の強化を図る。

VIII 財務

	評価項目	評価
33	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	3
34	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	3
35	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
36	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【状況・課題】

- ・法人としては厳しい学生募集状況が続いているものの、本校単独で鑑みれば、教職員一同の努力によって財務基盤は安定している。
- ・将来に向けた設備投資のため、中長期による予算、収支計画を練っており、学校運営上の必要経費を確保しつつも十分に機能している。
- ・財務状況に関して会計監査は適正に実施されており、外部の税理士による確認も実施している。
- ・本校 Web サイトで財務情報の公開を行っている。

【改善策】

- ・将来に向けた設備投資に関して具体的な計画書を作成していく。

IX 法令等の遵守

	評価項目	評価
37	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
38	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
39	自己点検・評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
40	自己点検・評価の結果を公表しているか	4

【状況・課題】

- ・ 普段より法令及び設置基準等の遵守に努め、適正に学校運営にあたっている。
- ・ 個人情報について、特に管理上の取扱に配慮している。
- ・ 自己点検・評価について改善のために取り組み、問題点の改善に努めた。
- ・ 本校 Web サイトで自己点検・評価の結果を公表している。

【改善策】

- ・ 個人情報を含む、諸表簿の整理、処分を含めた管理体制を維持する。
- ・ 自己点検・評価を具体的な改善につなげるべく教職員会議等の機会を活用しながら、校務分掌や教育活動等の遂行状況の把握を促し、意識させていく。

X 社会貢献

	評価項目	評価
41	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	4
42	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
43	地域や関係団体との連携や交流を通して、地域活動に参加しているか	4

【状況・課題】

- ・ 夏休み親子科学教室（小学4年生，5年生，6年生対象）の実施や、中学生及び高校生による職場訪問の受入、学会認定資格試験への会場貸し出し、施設設備の貸し出しによる医療関連企業へ研究協力など、教育資源を広く社会に対して活用して貰える体制を整備している。
- ・ 校外で実施されているボランティア活動情報の掲示など支援の取り組みを行っている。
- ・ 前述の親子科学教室や、学院祭などを通じて地域との交流を図っている。

【改善策】

- ・ 親子科学教室や学院祭の内容を充実させ、より地域の方との交流を図る体制を整備していく。
- ・ 今後は、地域の中学生を対象とした臨床検査技師、診療放射線技師の仕事体験教室の開催も検討していく。
- ・ 学校行事（プログラム）において、清掃活動等の地域貢献に係る事項を入れる。

以上